

# Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2024/11/25

## Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	34.50	-0.21
JPY/THB	0.2229	-0.0017
USD/JPY	154.78	0.24
EUR/THB	35.97	-0.40
EUR/USD	1.0418	-0.0056
USD/CNH	7.260	0.005
SGD/THB	25.60	-0.18
AUD/THB	22.43	-0.17
USD/INR	84.46	-0.05
USD Index	107.55	0.58

## Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.210	-0.004
10Y (THB)	2.446	0.001
5Y (USD)	4.295	-0.009
10Y (USD)	4.400	-0.022

## Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,712.2	37.3
WTI (Oil)	71.24	1.14
Copper	8,968.0	-40.5

## Stock

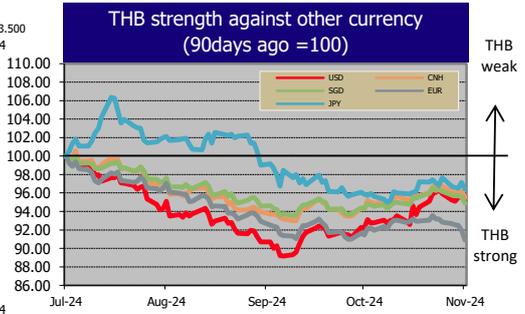
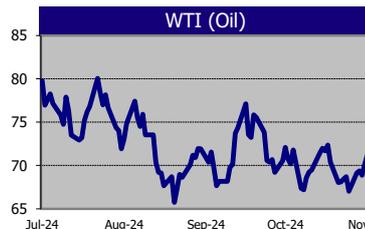
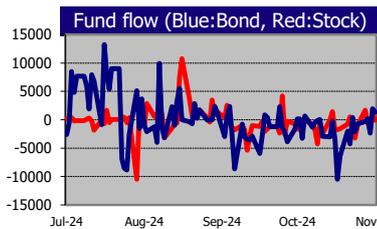
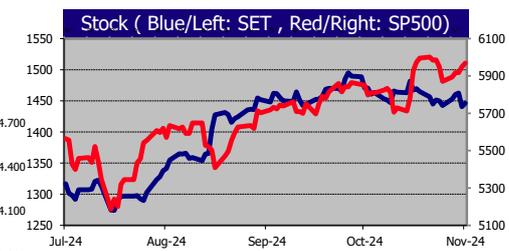
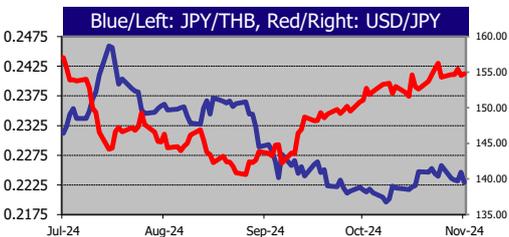
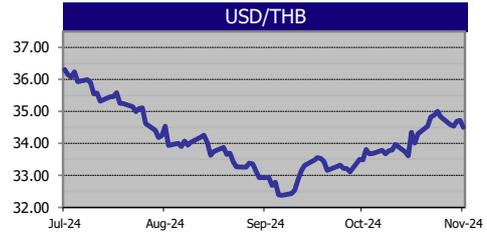
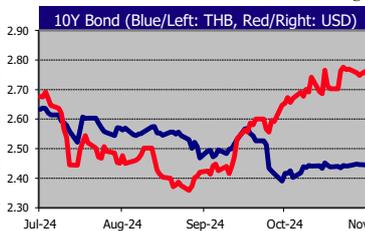
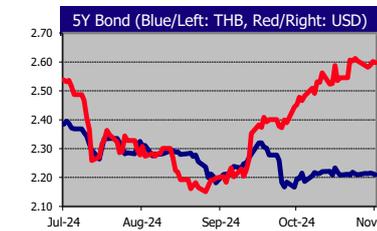
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,446.30	5.84
NIKKEI (JP)	38,283.85	257.68
DOW (US)	44,296.51	426.16
S&P500 (US)	5,969.34	20.63
SHCOMP (CN)	3,267.19	-103.21
DAX(GER)	19,322.59	176.42

## Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(118)	-1273.3
Bond net flow	1,312	-611.7

\*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



## Yesterday's market summary

### ●ドルパーツ

22日(金)のドルパーツは下落。34パーツ台後半付近で取引を開始すると、しばらく同水準での推移が続いたものの、バンコク時間昼頃、タイ憲法裁判所がタクシン元首相の政治的影響力に関する申し立てを却下したとの報道を受けてか、ドルパーツは海外時間入りにかけて34パーツ台半ばまで下落した。その後は強弱入り混じる米経済指標に上下するも、水準は変わらず、結局34.50レベルでクローズを迎えた。

### ●ドル円その他

22日(金)のドル円は方向感に欠ける推移。154円台前半の水準で取引を開始。本邦10月全国CPIが堅調な結果であることが確認された場面では153円台後半を付けるも、勢いは続かず、直ぐに水準を戻す展開に。その後、154円台後半まで上昇するも、再び154円台前半に戻すなど、方向感に欠ける推移が継続。海外時間に入り、米11月サービス業PMIが市場予想を上回ったことが確認されると、ドル円は154円台後半まで上昇。ただ、その後発表された米11月ミシガン大学消費者マインド指数(確報値)が、1年期待インフレ率とともに市場予想を下回り、上値は抑えられた。終盤にかけては154円台後半での推移が続き、そのまま154.78レベルで引けた。

## Bangkok Dealer's Eye

先週は地政学リスクが再び台頭し、ヘッドラインに市場が振られる緊張感のある展開となった。引き続き警戒感は今週も持つ必要があるだろうが、今週は同様に先行き不透明感が高まっている米金融政策に係る材料の発表もいくつか予定されている。まず、26日(火)には2会連続で利下げを実施した前回(11月6日-7日)会合のFOMC議事要旨が公表される。今月15日に発表された米10月小売売上高をはじめ、足もとでは引き続き堅調な米経済指標が確認され、14日のパウエルFRB議長の講演では「経済は利下げを急ぐ必要があるシグナルを発していない」と述べ、今後の利下げペースについて慎重に検討することを示唆されている中、同議事要旨において、FOMCメンバーのタカ派な考え等が確認されるようであれば、市場は今後の利下げ見通しの更なる修正を迫られることとなる。そして、27日(水)には、米10月PCEデフレーターが発表予定されている。同指標はFRBが重視しているとされる、米国の物価に係る指標であるが、前回(9月分)はエネルギー価格の下落が寄与する格好でヘッドラインこそ前年比で低下したものの、コアでは足踏みが続いていることが確認された。今回も同指標が引き続き米国のインフレ圧力の根強さを意識させる結果となれば、こちらも米国の利下げ観測後退につながる可能性が想定されよう。来月の今年最後のFOMC(12月17日-18日)に向けて、こちらも目が離せない状況が続くようだ。(末廣)